

0.Introduction

0-1. 精神病理学

精神病理学：ひろく異常心理現象ないし病的精神状態を対象として記述・整理・分析をすすめる分野で、精神医学の中心部分を構成する。したがって精神病理学は精神医学と重なる部分が多く、19世紀の末まで独自の歴史をもたなかった。それがしだいに体系的な方法論をもつようになるのは、精神医学を構成する諸領域の分化が20世紀以降すすんだ結果でもあって、その基礎はドイツのシュテリング **G.Störring** の著書《精神病理学講義》(1900)により置かれたといわれる。 (<http://kotobank.jp>) うつ病、統合失調症など。

0-2. ニューロンとシナプス

1.脳と計算機

脳の個々の要素の機能が悪くなくても、脳全体として大きな誤りや失敗をさけるのは何故か。

1-1. 検算方法

絵

神経系にも再現されていると考えられる。

1-2. 脳、計算機の異常事態

脳の死と情報の消滅

シナプスの閾値が、生存中にどのくらいであったかを死体から知る方法はまだわかっていない (今も?)

循環性記憶、恒久性機構

絵

1-3. 異常事態の対処法

機械では、情報の除去、故障部分の取り替え
脳では、、、睡眠(**sleep over**)、外科手術、衝撃療法

前頭葉除去手術(ロボトミー術、**Prefrontal lobotomy**)

前頭葉を取り除くあるいは分離する。煩悶維持能力を損傷破壊する事による、循環性記憶の制限。(1975年から日本では行われていない)

電気ショック

(20世紀前半までは信じられていたが科学的根拠は無い。)

これらに加えて精神分析による、患者の納得により感情の調子の修正して、もっと害の少ない物にする。

2. 脳の仕組み

2-1. 灰白質と白質

ニューロン連鎖の距離=精神異常の発生確率

A:Bの長さのときの話

2-2. 右脳と左脳

優位半球の取っ替えっこ (**hemispheric changeling**) の問題

どもり、言語障害、読書障害、書字障害??

2-3. 恐竜の脳の大きさ

3. 現在のコンピューター技術 (番外編)

3-1. ニューロンシナプス・コンピューターについて

ココもこれからかくよー

英文も引用をくわえるよ